

2023年度(令和5年度)

研修の計画

1 研究主題

相手の考えを聴き、自分の考えを伝え、共に学び合う子の育成
～学び合うことで「わかった」「できた」「自分の考えが深まった」などの実感がある授業づくり～

2 主題設定の理由

本校では、2019年度から「自他を認め、つながる子どもの育成～全ての授業に人権の視点を～(全領域)」を主題とし、研修を行ってきた。各学級において児童の姿を、その生活背景とともにとらえ、人権レポートを作成し、レポート研修会を行い、全クラスで授業公開を行ってきた。取り組みの中で、なかまとのつながりが気になる子どもの人権課題を明らかにし、子どもが具体的な実践行動につながるよう進め、2020年度は北勢地区人権・同和教育研究協議会研究指定校としての発表も行った。

2021年度からは、それまでの成果と課題を踏まえ、新学習指導要領に示された「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」という方針の元、「相手の考えを聴き、自分の考えを伝え、共に学び合う子の育成 ～学び合うことで『わかった』『できた』『自分の考えが深まった』などの実感がある授業づくり～」という研究主題を設定した。教科を越えて、ペア、グループ、学級全体、ICT 活用といった様々な形態での子供同士の協同的な学びの充実を目指して、研究を続け、本年度で3年目となる。

研究主題の設定理由は、本校の実態として、聴きあう関係ができていないことで、自分の思いを安心して伝えることができない、また相手が自分の考えを受け止めてくれるのが不安で、わからなさや困り感を伝えられず、わかったふりをしてしまうなどの気になる姿が授業中やそれ以外の学校生活の中でも見られたことにある。そこで、安心して自分の思いを伝えることができる、友だちの考えを聴きたい、困っている友だちに寄り添い共に学びたい、とする姿を目指していきたいと考え、この研修主題を設定した。そして、子どもたち一人ひとりが授業の最後に、わかった、できた、考えが深まったという学ぶ喜びを実感する授業にしたいと考えた。

この2年間での成果と課題は次のようである。

成果

- ・この2年間で、友だちの考えを聴こうとする、困ったことを友だちに伝える、困っている子に寄り添おうとするといった面で、成長がみられた。
- ・自分の考えを伝える方法として、「話し合う」だけでなく、オクリンクやジャムボードのど、ICT の活用により様々な考えを表現する方法について研究することができた。子どもたちもその方法に慣れ親しんできている。
- ・どの教科の授業でもペア・グループ活動をはじめとした、友だち同士で学び合う授業づくりができてきた。

課題

- ・相手を意識した発言(直前に発言した子につなげようとしたり、相手に伝わるように話したりすること)には、まだ課題がみられる。そのために、指導者は、多様な考えが出る課題の設定だけにとどまらず、話し合いが深まるような課題

を意識する必要がある。

・学び合いを成立させるためには、子どもたち同士の関係ができていないと成立しにくいいため、学級づくりが大変重要である。

・ICT 活用をすることで、思考が整理されたり、より意欲的に学ぼうとしたりする子が増えた。しかし、子ども同士の対話が途切れてしまった場面もあった。教師側が積極的に活用することで、成果、課題が見えてくるので、今後も積極的に活用していきたい。

成果と課題を踏まえ、引き続き同じ研究主題を設定し更に研修を深めていくものとする。

今年度は、これまでの取り組みを継続させていくとともに、様々な自分の考えを表現するための方法について ICT の活用を含めた研究を進めること、授業を通して子ども同士のよいつながりを深めることにも視点を置くことも実施していきたいと考えている。

3 めざす子どもの姿

- 相手の考えを尊重して聴く子(間違いに寄り添える)
- 相手が伝えたいことや考えていることを想像しながら聴く子
- 自分の考えが相手に伝わるように話す子
- 自分がわからないことを伝えられる子
- 困っている子を放っておかないで共に学ぼうとする子
- みんなで考えを生み出して作り上げようとする子

4 研究内容

(1) 聴き合い、伝え合い、学び合う関係を作る集団作り

- ・安心して学べる教室環境づくり → 教室前面は刺激が少ない環境
既習事項や学習のヒントなどの教室横への掲示
- ・安心して学べる学習集団づくり → 学習規律、学習時の持ち物の徹底
自己肯定感を高める取り組み、人権学習

(2)「友だちの思いや考えを聴きたいな」、「友だちに自分の思いや考えを伝えたいな」と思う授業づくり

- ・ペアやグループを活用する。
- ・多様な答えや、複数の結果、つまずきが起こるような課題設定をする
- ・子どもと子どもの考えをつなげたり、子どもと教材をつなげたりする。
- ・効果的に ICT を活用した考えの表現方法を工夫する。

(3)「めあて」「ふりかえり」で授業の見通し、意欲向上、定着を図る

- ・「授業力 UP5」を活用した授業づくり
- ・「ふりかえり」で授業の中身が理解できたか、考えたことはどういうことか、わかったことは何か、できるようになったことは何か、次に繋がる課題は何か、を考えさせる

(4)ユニバーサルデザインの授業づくりをする

- ・ICT を活用してわかりやすい授業
- ・板書の工夫
- ・ノート指導の統一
- ・学習規律や持ち物の統一について全校で統一した指導を行う。

5 具体的な研修の方策

(1) 全体提案授業

- ・低・中・高学年、なかよし学級で1回ずつ全体提案授業を行う。(1回は人権提案授業)
- ・教科は問わない。
- ・全体提案授業者だけの負担にならないよう、学年部会で研究テーマを具体的に設定したり、事前の指導案検討を行ったりする。

(2) 事後検討会

- ・事後検討会のもち方を工夫する

(3) 学年部会内提案授業

- ・全員が一回は提案授業をし、互いに授業を見合い、部会で事後検討会をもつ。
- ・教科は問わないが、学年部で統一した課題をもって取り組む。
- ・5月中旬を目途に、学年部の年間計画を立てることとし、全体提案授業でも学年部の取り組みに触れて提案する。
- ・学年部内提案授業も他学年部への先生方にも指導案(略案)を配布し、実施日や授業内容を周知する。

(4) 「めあて」「ふりかえり」で意欲や見通しをもたせ、「わかった」「できた」「自分の考えが深まった」などの実感をもたせる

- ・話し合いの充実の結果、各教科においてどのような姿が見られたら「わかった」「できた」「自分の考えが深まった」ということになるのかについても研修を進めていく。

(5) 学習規律、持ち物の全校統一を図る

<話し名人>

高学年	中学年	低学年
話し名人	話し名人	話し名人
① 相手の顔を見て	① あい手のかおを見て	① あいての かおをみて
② 聞く人に 伝わるように	② 聞く人に つたわるように	② きくひとに つたわるように
③ 声の大きさを 考えて	③ 声の大きさを 考えて	③ こえのおおさを かんがえて
④ 最後まではっきり話す	④ さいごまではっきり話す	④ さいごまで はっきりはなす

<聴き名人>

高学年	中学年	低学年
聴き名人	聴き名人	聴き名人
① 相手の目を見て	① あい手の目を見て	① あいての めをみて
② 自分の考えとくらべながら	② 自分の考えとくらべながら	② うなずきながら
③ うなずき 反応して	③ うなずき 反応して	③ しせいいたしく
④ だまって最後まで	④ だまって最後まで	④ おわりまで

<学びの作法>

高学年	中学年	低学年
学びの作法	学びの作法	学びの作法
① チャイム着席	① チャイム ちゃくせき	① チャイム ちゃくせき
② 授業が終わったら 次の授業の準備	② じゅぎょうが おわったら つぎの じゅぎょうのじゅんび	② じゅぎょうが おわったら つぎの じゅぎょうのじゅんび
③ えん筆をけずるのは休み時間	③ えんぴつを けずるのは 休み時間	③ えんぴつを けずるのは やすみじかん
④ 忘れ物は授業前にほうこく	④ わすれものは じゅぎょう前に ほうこく	④ わすれものは じゅぎょうまえに ほうこく
⑤ 良いしせいで	⑤ よいしせいで	⑤ よいしせいで

<持ち物>

高学年	中学年	低学年
持ち物	持ち物	持ち物
・学校に必要な物は持ってこない (キーホルダー、ふせん、メモ帳など) ふではこの中身	・学校にひつようない物は持ってこない (キーホルダー、ふせん、メモ帳など) ふではこのなかみ	・がっこうに ひつようないものは もってこない (キーホルダー、ふせん、メモ帳など) ふではこの なかみ
・えん筆4, 5本程度 ・名前ペン ・赤えん筆 ・青えん筆 ・じょうぎ(おりたたみ式は使わない) ・消しゴム(シンプルなもの)	・えんぴつ4, 5本ていど ・名前ペン ・赤えんぴつ ・青えんぴつ ・じょうぎ(おりたたみ式は使わない) ・けしゴム(シンプルなもの)	・えんぴつ4, 5ほんていど ・なまえペン ・あかえんぴつ ・あおえんぴつ ・じょうぎ(おりたたみしきは つかわない) ・けしゴム(シンプルなもの)

(6) ノートの統一を図る

ノートの書き方。

4/20 (め) 数直線をつかって式をたてよう。

う。

p15

□ 5 m で 3.7.0 kg の板がありま

す 1 m の重さは何 kg ですか。

0 1 ×5 5 (m)

0 370 (kg)

(式) □ × 5 = 3.7.0

□ = 3.7.0 ÷ 5

= 7.4

(答え) 7.4 kg

5 3.7.0

3.5

2.0

2.0

0

4/20 (ま) 数直線をつかえば式をたてる

こ と が で き る

p15

(ふ) い つ も は 数直線をかかずに

式をたてていて かけ算か わ

わり算か わ か ら な い と き が あ っ

た ても 数直線をつかえば

か け 算 か わ り 算 か 分 か る よ う

に な っ た

数直線をかくと きに O.O さ

ん が 「 最 初 に 1 を み つ け る 」 と

い う 考 え が よ か っ た

① あたらしい ページから かく。

② たてせんをひく。

③ ひにち、ページすうをかく。

④ めあてを あおえんぴつで かこむ。

⑤ まちがいは のこしておく。

⑥ まとめを あかえんぴつで かこむ。

⑦ ふりかえりを かく。

⑧ 1 ますに 1 もじずつかく (すうじが おおいときは 2 もじ)。

⑨ かだい、しき、ひっさん、こたえなどを かいたら 1 きょう あける。

⑩ じょうぎと したじきをつかう。

(7) 学習の定着状況を検証する(学力調査、三重スタディチェックの活用)

6 先生方への提案

(1)5分参観

日頃、教員同士で授業を見せ合う余裕がないため、「5分だけ」と参観へのハードルを下げ、気軽に授業を見せ合う雰囲気を作る。

(2)話し合いの活性化の工夫

単に、「グループ(ペア)で話し合いましょう」というだけでは、主体的に話し合いとはならない。話し合いを活性化させるためには、児童の話し合いのスキルの向上も重要であり、国語を中心にそのような学びも工夫していく。また、「聴き合う」を意識させるため、話合わせるのではなく、「友だちに質問してみましょう」と声をかけるなどの教師側の指示の方法にも様々な工夫が考えられる。

(3)参観の視点は「目立たない子」

教員同士で授業を参観し合うにあたり、発言が多い子ではなく、「発言が少ない子」を視点とし、その子がこの1時間でどのように学んだのかを観る。

(4)ミニ研修の実施

月1回程度20分程度(金曜日の15時半～16時? 全10回?)

自分の得意なことで30分以内に準備ができる程度の負担感のないにする。若い先生たちに指導するつもりで授業づくりのヒントになることを1回につき一人担当でお願いする。

(5)校外研修への積極的参加

校外での研修への積極的な参加を推進する。

7 年間研修計画

1学期	4月 7日 全体研修会 4月18日 学力状況調査 5月18日 4・5年みえスタ 5月中旬 全体提案授業・学年部内定 数授業の年間計画作成 8月 学調分析、夏季研修会 (全体提案授業・学年部内提案授業)	・研修構想提案 ・話し方・聴き名人、持ち物、手引き、テーマ提案 ・研修の重点取り組み提案(授業参観、参観の視点、グループの発問)
2学期	(全体提案授業・学年部内提案授業) 校外研修への参加	
3学期	3月 全体研修会	・成果と課題の整理 ・来年度の研修について